

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	English F		
英文授業科目名	English F		
開講年度	2005年度	開講年次	2年次
開講学期	4学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化応用科目Ⅰ		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	西村 芳康		
居室	東1-714		

公開E-Mail	授業関連Webページ
nishimur@bunka.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
1年次に身につけた学力を基にして、さらなる読解力向上のための訓練を行ない、英語による自己表現が可能となる素地を作る。この授業ではテープなどを用いて聴解力を養成する練習も行なう。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
English A,B,C,D

<b>【教科書等】</b>
西本徹著「オピニオンの相違から学ぶ英語」Both Sides Now (成美堂) 意見が分かれる社会的な問題を扱った説明文、ディスカッション、練習問題で構成。

## 電気通信大学 平成17年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

(注意：この授業は前期と密接に関連するので、前期と続けて履修するのが望ましい)

具体的な目的は、読解力の向上を図るために「文章構造の理解」と「文脈の把握」ができるようにすることである。授業では1年次までに習った基礎的知識をテキストの英文に応用して、段落ごとの内容をつかんだり段落の構成を学ぶ。テキストは15課構成で、各課を2回の授業で扱う。各授業では内容把握を主眼にして、約1頁の英文を読んで練習問題を解いていく予定。また、英語による自己表現に必要な語法を身につける。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

#### 評価方法

- (1) 期末試験(受験には授業回数の3分の2の出席が必要条件)、実力問題を含む。
  - (2) 出席状況(妥当な理由のない欠席・遅刻は減点評価をする)
  - (3) 授業中の態度や、発表の仕方
- さらに、臨時に小テストする場合がある

評価基準・以下の2つの基準に基づく。

#### (大学作成)

100～90点は秀、89～80点は優、79～70点は良、69～60点は可、60点未満は不可。

平成16年度以降は「評価平均」が導入されて、不可や履修放棄は0点として計算に入れられるので注意すること。

#### (英語教室作成)

合格者の20(+/-10)%は秀と優、合格者の40(+/-10)%は良、合格者の40(+/-)%は可、それ以外は不可。

### 【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電話やメールなどで事前に予約を取ること。

### 【学生へのメッセージ】

1. 英語に触れる時間を生活の一部に組み込むことが肝要です。
2. 実用的な音声面の英語学習には、NHKラジオ・テレビの語学番組がお勧めです。

### 【その他】

1. 授業ではノートを使いましょう。  
テキストに書き込むのは手軽のようですが、学習に役立つ手作業としての効果は薄いです。
2. 教室での座席は、各自が選んだあと毎回同じ席を使います。
3. 各学期に「実力診断」をする予定です。